

受 付	個 人 質 問 令和 年 月 日	第 時 分	号 分
--------	---------------------	----------	-----

## 一 般 質 問 < 個 人 > 発 言 通 告 書

令和2年8月25日

長久手市議会議長 殿

長久手市議会議員 田崎 あきひさ ⑩

会議規則第59条第2項の規定により下記のとおり通告します。

	質 問 事 項 及 び 要 旨	備考
1	<p><b>新庁舎の第6次総合計画期間内の完成断念とポスト・コロナを見据えた満足度の高い市役所窓口機能のあり方について</b></p> <p>第6次総合計画期間である2028年度(令和10年度)までの新庁舎完成について断念することをうけ質問する。</p> <p>(1) 一般的に窓口業務とは何があり年間どのくらいの人が来庁されているか。</p> <p>(2) 複数課にまたがっている申請について来庁者の人数は年間どの程度と把握しているか。</p> <p>(3) 長久手市現庁舎での現在の窓口サービスにおける課題をどのようにとらえているか。</p> <p>(4) 行政サービスの種類や担当課によって、行政サービスを提供する窓口が異なり、それぞれの窓口で担当者が受付処理を行っている。そのため、複数の行政サービスを受けたい市民は同じフロアのいくつもの窓口を回っているのが現状。行ったり来たりする状況も発生していることから「ワンストップサービス」の確立が望まれていると考えるが見解と対応策を問う。</p> <p>(5) 上記課題を解消するため、従来からの市民課の手続(住民異動・戸籍)に福祉関係手続(国民健康保険・乳幼児医療・介護保険・後期高齢者医療・児童手当・年金・税・子育て)をひとつの窓口で複数の手続きができるようにし、市民を各課へのたらい回しを減らすべく、市民が複数の手続きを一つの窓口で一括して行うことができるよ</p>	

	<p>う窓口の一元化について、見解と対応を問う。</p> <p>(6) 市役所へ来庁しなくてもできる手続き（電子申請）の拡張について、市役所まで行かずして窓口サービス（申請）できるようにするための投資の方が、これからの新常态として新庁舎に52億円かけるより効果的ではないかと考えるが市長の考えと対応について問う。</p> <p>(7) 市役所新庁舎について以前の質問で「昭和42年築の本庁舎、昭和49年築の西庁舎については、老朽化が進んでいるものの、これまでに耐震補強工事を実施し、柱、梁等の躯体構造の耐震基準を満たしていることから、大地震発生時に直ちに建物が倒壊することはない。」と答弁している。 （令和2年第2回定例会）</p> <p>一方、長久手市ホームページでは「市役所本庁舎は、市の施設では最も古く、平成15年に耐震改修工事を実施したものの、躯体や設備の老朽化、劣化が進んでおり、災害時に使用するには不十分です。また、バリアフリー化や省エネルギー化にも対応しきれていない状況です。</p> <p>これらを踏まえ、大規模災害発生時において初期対応から復旧、復興にわたって拠点となる市庁舎を安全性の高いものとする必要がある。」との記述もある。 （平成30年12月18日更新）</p> <p>この件についての窓口機能については、必要な面積を積算し利便性安全性の観点から優先して移転することを早期に検討しかたちにしてはどうか。</p> <p>(8) 小学校区単位の市役所機能とは具体的にどこを念頭に置いてどのような機能をいつまでに設置することか。市長の在任期間中に可能なのか。</p>	
2	<p><b>桧ヶ根公園バスケットコートについて</b></p> <p>桧ヶ根公園のバスケットコートは、大変人気のある施設である。以前はコートがはがれ、シューズが挟まるなど怪我を誘発しかねない環境にある状態であったが、平成25年度予算組みをし、桧ヶ根公園のバスケットボールコートのゴムチップによる舗装とコートライン舗装を施工した際には、利用者から大変喜ばれた。しかしながら再びけがを誘発しかねない環境になりつつあると改善の声があるが今後の安全確保の対応について伺う。</p>	

3	<p><b>決算全般について（長久手市決算審査意見書から）</b></p> <p>(1) 行政運営について 行政改革の取り組みが遅いことを監査委員から指摘されている。行革指針（平成31年度～令和10年度）について今後は細かな実施計画をもって効果が上がる行政改革を進めてるよう指摘されているが改善策を問う。</p> <p>(2) 予算流用について 予算編成時に必要額を計上していれば流用を行わなくても済んだ事例や補正予算を計上して執行すべきだった事例が見受けられていることを監査委員から指摘されている。また、予算編成にあたり的確に見積もりを行うことや安易に流用措置を行うのではなく補正予算を計上し議会の議決を得たうえで執行することを徹底するよう指摘されているが見解を問う。</p> <p>(3) 建築物の構造別の比較検討について ここ最近の施設建築（地域共生ステーション、保育園、学校校舎の増築）のほとんどが、木造で予算化されていることについて監査委員から建物建設費は相当高額であり、今後の建物の予算化や執行にあたっては1.建物の用途、2.使用期間、3.建物の構造、4.建築費、5.供用後の維持管理費など様々な点を比較検討の上進めるべきだと指摘された。指摘を受けて今後の市長の対応と、上記の件について比較検討はされていたか否か詳細を問う。</p> <p>(4) 上記については今後の建物の予算化や執行にあたり、様々な検討の上、必要最小限の額で最大の効果を上げるよう計画し執行するようにと指摘されている。この点について見解と今後の対応について問う。</p> <p>(5) 古民家事業について 市内にある古民家を有形文化財に登録指定したのち古戦場公園内に移築する当初計画は、現在では古民家を文化財とはせず一部の部材のみを活用すると見直した点について、監査委員からこの見直しとなった最大の原因は、計画検討の初期の段階でしっかりとした事前の調査や見当も十分行わないまま総合計画に位置付けし、その後、この計画の実現に向けて走り続けたことであるとし、一旦全てを白紙に戻し検討しなおすことが重要であると指摘されている。市の対応について問う。</p> <p>(6) まちづくり事業交付金交付先会員名簿作成について 会の要件の基本となる会員名簿が作成されていないこと、総会などに参加したものは一部の者のみで、この参加者で決めた役員の人選、事業計画は学区の総意とは言</p>
---	--

	<p>い難い状況である。会員名簿は団体要件の基本であり、破格の額を交付する制度であることから会員名簿を作成し団体としての要件を揃えるよう監査委員から指摘をされている。現在の市政のあり方を問われていると考えるが、名簿作成への指摘に対しどう対応するのか。</p>	
--	---	--